

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「一人一台端末を生かした

個別最適な学びによる学力向上を目指した実践」

蓮田市教育委員会・蓮田市立黒浜北小学校

黒浜北小学校の取組

黒浜北小学校では令和3年度より、「個別最適な学び」「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」の実現のため、授業改善に取り組み、全ての児童の学力向上を目指してICTを活用した教育実践を進めている。

事例1

○教科名 社会

○単元名 「わたしたちの生活と工業生産」 第5学年

○身に付けたい力 ・主体的に学習問題を追究

・解決しようとする態度

・原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状の理解

・消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発の重要性への気づき

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへ向けた工夫

【第6時】SKYMENU「発表ノート」を活用した意見交流学習

- ① 単元を通して学習してきた日本の工業生産の課題について、自分が一番重要だと思うものを選び、理由と合わせて発表ノートに記入する。その際、考えの根拠となる資料（教員が事前に用意した資料から選んだもの、教科書の必要資料を撮影し、貼付けしたもの等）を活用する。
- ② 同じ課題を選んだ児童同士でグループを作り、考えの交流を行う。課題に対する根拠を明確にもてていなかった児童も、友達の意見を聞くことで自分の考えをもてるようになる。考えの共通点と相違点を意識しながら、全体交流で発表できるようにグループで1枚のまとめスライドを作成する。
- ③ 各グループのまとめスライドを全体で交流する。それぞれの課題について詳しく考える中で、日本の工業が抱える課題同士が関連していることに気付かせる。



事例2

○教科名 図工

○単元名 「どろどろカッチン」 第4学年（鑑賞）

○身に付けたい力 ・自分の作品の工夫した点やイメージ、相手の作品のよさを伝える表現力

・作者の思いを考えたり工夫を知ったりすることによる多様な見方や考え方

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

【第6時】SKYMENU「発表ノート」を活用した鑑賞

- ① 完成した自分の作品の『見てほしいポイント』として、「芯材として使った材料」「制作時の工夫」「イメージした世界」をタブレット PC で動画に撮る。撮影した動画と制作過程の写真、ポイントを短い文で表したものを SKYMENU「発表ノート」の1枚のスライドにまとめる。
- ② 鑑賞時に気になる作品について自分なりの視点で見たあと、その作品についての動画付きスライドを見ることで作者の思いや工夫を知り、見方や考え方を広げる。動画視聴はイヤホンを使用して、児童一人一人が自分の見たい作品を見たいタイミングで集中して鑑賞できるようにした。



事例3

- 取組場面 随時（業前、学期末、自習、家庭学習等）
- 対象 全学年
- 取組内容 ラインズeライブラリを活用したドリル学習
- 一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫



- ① 基礎基本の定着を図るため、隙間時間を活用してドリル学習に取り組んだ。
- ② 「自由学習」機能を活用して、苦手な部分を全学年に遡って学習したり、発展的な問題に挑戦したりと、児童一人一人が課題意識をもって取り組めるようにした。
- ③ 「学習指示」機能を活用した宿題を出すことにより、授業で学習した内容の定着を図った。
- ④ 「いろいろカード帳」機能を活用し、国語の慣用句や都道府県などを授業の冒頭で反復学習することで、基礎基本の定着を図った。

その他の取組

- 作成した教材（発表ノート）で効果的であったものは教員間で共有し、授業準備の負担を軽減しながら質の高い教育を実現できるようにした。
- 教員一人一人の力量向上のために、校外でのICT研修会に出席した教員から全教員への伝達研修を行った。
- ICTをツールとして効果的に活用しながら、紙のワークシートやノートの良さも生かした教育実践を行っている。特に低学年では、キーボードによる文字入力は困難なため、紙のワークシートとの併用が効果的であった。
- 特別活動の年間指導計画に情報モラル教育を位置づけ、すごろく、カルタ等の教材を活用したネットリテラシーや情報モラルの指導を行った。

まとめ

一人一台端末を活用した実践により、児童の①基礎・基本の定着 ②主体的に学習に取り組もうとする意欲 ③自分に合った学習内容・方法の選択 ④児童同士の情報共有による見方・考え方の広がりなどの効果がみられた。教員同士の教材・指導方法の共有やICT推進担当教諭の伝達研修により、全教員のICT活用能力も大きく向上している。

児童一人一人の学力を確実に向上させるために、今後もICTの効果的な活用について教職員一丸となって児童が授業の中で「分かる・できる・伸びる」が掴めるようにさらに深い研鑽を積んでいく。児童のICT活用能力が向上し、多様な使い方ができるようになりつつある状況も踏まえ、今後は正しい使い方についてのネットリテラシーや情報モラル教育についても実践を重ねていく。